

<p>1 学校教育目標</p> <p>熊本県教育委員会の「令和7年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「令和7年度人権教育取組の方向」等を中心に据えながら、全職員が教育者としての自覚と使命感、教育的愛情と人権感覚を持ち、資質と指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながら、知・徳・体の調和が取れ、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、たくましく生きる力を備えた将来のリーダーとなる青年の育成に尽力する。さらに、本校建学の精神である「質実剛健」のもと百年を超える伝統を継承しつつ、中高一貫教育校として新たな発展と創造をめざす。</p> <p>中高一貫教育校としての利点を生かし、効果的な教育のあり方を研究するとともに、地域との連携をより一層深め、地域に開かれた特色ある学校づくりに邁進する。</p>

<p>2 本年度の目標</p> <p>1 安心安全な学習環境づくり 3 グローバル研修の充実 5 学習力向上 7 生徒一人一人の多様な進路実現</p> <p>2 スーパーサイエンスハイスクールの取組推進 4 自治力向上 6 探究力向上</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業企画数 来場(来校)者数 	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動、探究の「問い」を創る授業の深化 中学校説明会参加者250人以上、高校説明会参加者250人以上 J-tech、JWB公開授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> UTO Well-Being探究Award2025を熊本城ホールで開催 年間を通じた公開授業の実施 教育活動紹介のため、年間複数回の小中学校訪問 HP、PTA広報誌、同窓会報、新聞、テレビCM等での広報 教員業務支援員を活用した広報活動 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> UTO Well-Being探究Award2025での保護者を含めた220人の来場者 年3回の公開授業実施 中学校説明会延べ240人、高校説明会234人参加 生徒募集で複数回33の小中学校、17の中学校を訪問 テレビCM、広報うと(月刊)を活用した広報活動 教員業務支援員によるブログの更新、10月には992,000の閲覧数
	学校の魅力化	<ul style="list-style-type: none"> 入学志願者数 グローバル研修参加生徒数 英検等の英語力向上 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校志願者120人以上、高校志願者180人以上 グローバル講演会2回以上 海外大学進学者数5名 中3生の英検3級レベル60%以上 高3生の英検準2級レベル60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒募集パンフレットの刷新 既存の国内外の研修や修学旅行等を含めた検討 台湾やイギリスの大学訪問ツアーの案内、海外で活躍する卒業生との交流 中3生全員にグローバル・スタディーズ・プログラムを実施 英検受検者数増加につながる積極的呼びかけ、支援 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校志望者102人、高校志望者149人 グローバル講演会を2回実施 海外大学への進学予定者1人 台湾の大学訪問に14人、イギリスの大学訪問に18人参加 7月に3日間、中3生全員対象のグローバル・スタディーズ・プログラムを実施 中高ともに外部講師による英検対策講座を開講 中3生の英検3級レベル70%、高3生の英検準2級レベル85% <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 志願者増につながらない
	中高の垣根を越えた教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 校種を超えた授業、活動の実施数、参観数 中高一体となった探究活動数 	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫6年間の学びを見据えた授業改善 探究を個人の希望と展望を持って進めている生徒数が50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教科内で6年間を通じたシラバス策定、新しい評価規定による観点別評価の適正実施 評価に関する専門家を招いての職員研修を実施 Well-Beingを見据えた中学校独自の体験活動と高校の効果的な学びの接続の検討 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教務主任、探究部長、SSH担当を崇城大学に派遣し、総合教育センター教授とシラバス作成についての情報交換 観点別評価に関する職員研修の実施 県外の中高一貫校に職員を派遣し、授業と評価の一体化についての情報交換 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解
	業務改善・働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 時間外従事時間 年休等取得日数 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外業務従事時間前年比10%縮減 平日の時間外業務従事時間目標(40h) 年休等取得12日以上 	<ul style="list-style-type: none"> 8月に定時出退勤月間の設定 学習アプリ、デジタル採点の効果検証 模擬試験監督等に卒業生からなるスクールサポートスタッフを活用・検証 学校閉庁日の設定 メンタルヘルス職員研修の実施 衛生委員会の充実 休みをとりやすい職場の雰囲気づくり 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時出退勤月間である8月の時間外従事時間がR6年度16:44時間→R7年度13:14時間、前年度比-0.8% 時間外業務従事時間(4月～12月平均)R6年度42.5時間→R7年度39.4時間、前年度比-0.9% 平均年休取得日数(4月～12月)10日 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外従事時間の多い教員の固定化

学力向上	生徒の学力向上	・観点別評価		・観点別評価でCがついた生徒へのその後の指導・支援の充実 ・個別最適な学びを充実させるツール(スタディサプリ等)の各教科での活用	B	【成果】 ・キュビナやスタディサプリ等のツールを使用して個別最適な学びを充実させようとする教科・教員の増加 【課題】 ・年度末、観点別評価の成果が不十分で、成績不振科目のある生徒の存在
	教師の授業力向上	・授業評価	・生徒の授業満足度90%以上 ・探究の「問い」を創る授業の実践度90%以上	・年3回の公開授業及び授業研究会の実施 ・各教科による探究の「問い」を創る授業の実践状況共有のための職員研修実施	A	【成果】 ・第2回授業評価において、生徒の授業満足度が95.1% ・学校評価アンケートにおける探究の「問い」を創る授業の実践度、生徒・保護者・職員とも90%以上
キャリア教育(進路指導)	基礎学力の定着と幅広い知識を基盤として、教科横断的な見方・考え方ができる資質・能力の育成	・すべての生徒の自学時間	・すべての生徒が2時間以上の自学	・ラーニングルーム等、学習空間の確保 ・放課後の有効活用 ・スタディサプリ等、学習ツールの活用	B	【成果】 ・ラーニングルーム運営、学習ツール導入、特別講座の実施等、個別最適な学びの推進 【課題】 ・中高ともに2時間以上の自学ができていない生徒が半数程度であり、自己調整学習ができるよう教員の手立てが必要
		・すべての生徒の振り返り機会の回数	・すべての生徒が3回のリフレクション	・評定、模擬試験、コンピテンシー評価を可視化した面談資料モデルの作成 ・ポートフォリオ、キャリアパスポートの活用	A	【成果】 ・教育データを一元管理する進路の手引き、キャリアパスポートを運用した振り返り 【課題】 ・キャリアパスポート等、教育データを活用した生徒と教員との対話、面談の促進 ・担任への依存度大
	国内外の社会問題に興味・関心を持ち、他者と協働しながら解決できる資質・能力の育成	・すべての生徒が探究を通して社会とつながる回数	・すべての生徒が1回以上外部との探究	・学問: ジャパンナレッジSchool等の活用 ・社会: 学会、コンテスト、大学、企業等との連携	B	【成果】 ・大学や企業に加え、宇土市役所をはじめとした連携機関の増加と活用頻度の向上 【課題】 ・JKS接続4割程度、課題研究外部連携6割程度等、探究を通して外部とつながっていない生徒が一定数存在している点
		・すべての生徒が社会で活躍する大人に触れる回数	・すべての生徒が4回大人に触れる	・キャリアデザイン講座、キャリアデザインセミナーの実施 ・未来体験学習、学びの部屋、出前講義、講演会等、研修機会の設定	A	【成果】 ・全生徒対象に大人に触れる機会を4回以上提供 【課題】 ・学校が準備する機会以外に、主体的に生徒が外部機関との接点を設ける必要性を感じさせる取組
生徒指導	交通安全意識の醸成	・交通安全教育の推進	・交通安全教室(講話)における満足度80%以上 ・交通事故件数10件以内	・交通ルールの遵守とマナーの向上のため、定期的な交通指導、Classroomの配信等による啓発活動の実施 ・交通安全教室(講話)の開催	B	【成果】 ・校内でのバイクや自転車からの降車の励行 【課題】 ・ヘルメット着用の徹底 ・事故は7件発生しており、交通ルールの遵守とマナー向上に関して、交通講話等を通じて一層の啓発・徹底が必要
	生徒の自治力向上	・各種委員会の活動の見直し、取組の充実	・生徒会主催の行事の企画・運営の充実度(満足度)80%以上 ・各委員会活動の実践、達成度80%以上	・生徒会を中心とした学校行事の運営 ・体育祭、文化祭、クラスマッチ等の内容の見直し ・各種委員会活動の充実と活性化 ・生徒会執行部を主体とした各種委員会の開催	B	【成果】 ・生徒会各種委員会の実践・達成度75% 【課題】 ・体育祭、文化祭等の企画運営は生徒会中心だったが、生徒会担当の職員がいないため、生徒も教師もやりづらい

人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	・人権意識調査の実施	・自他を尊重する態度の育成 ・他者を共感的に受容するコミュニケーション力の育成 ・全職員による共通理解と実践 ・家庭への啓発	・人権作文・標語等の作成と応募 ・いじめ防止委員会に所属する生徒が主体的に行うLHR等、積極的な人権教育活動の実施 ・学期1回の職員研修の実施 ・学期1回の人権LHRの実施	A	【成果】 ・人権メッセージ・標語コンテスト等への積極的な参加、応募 ・いじめ防止委員会の人権メッセージ・標語の選考、展示、及び宇土市のイベントへの参加 ・職員研修やLHRを活用した「人権子ども集会」への全員参加、人権意識調査の実施 【課題】 ・職員研修の充実
特別支援教育	特別支援を必要とする生徒への支援と対応	・情報共有 ・計画の作成及び遂行	・支援計画作成引き継ぎ、フローに沿った実践	・年2回の生徒理解研修実施 ・ケース会議、支援委員会の定期開催 ・支援内容の可視化	A	【成果】 ・作成したフローに従った実践 ・支援計画の全職員での共有
	関係機関と連携した支援の充実	・関係機関との連携実績	・生徒、保護者のニーズに応じた機関への情報提供と相談	・関係機関と連携した早期支援体制づくり及び外部専門機関や巡回相談、教育相談員、SC等の指導助言の活用による実態に応じた支援の構築 ・関係機関を活用した支援会議の実施による支援の向上 ・支援、指導計画の周知、活用のシステム向上 ・小中高大(進路先)の支援の確実な引き継ぎ	B	【成果】 ・(高校)保護者のニーズに関する支援機関との連携した対応 ・(中学)SC、SSWの助言を受け、ニーズのある生徒の支援計画を新規作成 【課題】 ・支援ニーズのある生徒を把握し、次の進路先等への確実な引き継ぎ
いじめの防止等	いじめ防止に向けた生徒と職員の協働	いじめの予防・早期発見及び組織的対応	・いじめ見逃し0件 ・いじめ重大事案0件	・いじめアンケートの1・2学期実施 ・各事案に対していじめ防止対策委員会を開催し、現状把握と対応検討 ・外部専門機関を交えたいじめ防止対策協議会による対応評価と今後の対策検討 ・年度当初にスクールサインへ生徒・保護者が登録することによる相談しやすい環境整備といじめ問題の見逃し防止 ・いじめ防止対策協議会(各学期1回)のいじめに関する職員研修としての位置付け ・いじめの予防策や対応策を学ぶことで、いじめの現状把握と保護者対応の在り方等への正確な共通理解 ・生徒いじめ防止委員会活動の更なる活発化 ・生徒がいじめを見かけた場合は速やかに職員に相談できる関係づくり ・担当職員と協力した組織的対応	B	【成果】 ・1学期のいじめアンケートの実施において、いじめに関する質問事項のみに精選し、formsによる回答にしたことによる集約作業の負担軽減 ・各学期に「いじめ防止対策委員会」「いじめ防止対策協議会(職員研修)」を開催したことによる全職員での情報共有と外部専門家からの貴重な助言の獲得 ・人権課題の募集・展示やハートフルフェスタ参加等、生徒いじめ防止委員会活動の更なる活発化 【課題】 ・様々な取組を実施し、アンケート回答後やスクールサイン報告後に聴き取りを行い組織的対応を展開できたが、いじめ認知0件には至らず ・組織的に対応しているが、担任や学年主任の負担増加
地域連携	地域との連携・協働 (コミュニティ・スクールなど)	・学校評価アンケート ・地域連携企画数	・教育課程の編成、学校経営計画、防災体制等、内容を学校運営に反映 ・宇城地区小中学校との連携・交流	・年2回の学校運営協議会の開催 ・小学生学習支援ボランティア「学びの部屋」の開催 ・地域清掃ボランティアへの参加 ・地域の資源を利用した課題研究の展開 ・地域イベント等への積極的参加	A	【成果】 ・学校評価アンケートでの地域連携について、生徒・保護者が9割の肯定回答 ・「学びの部屋」高校生77人、児童160人参加 ・熊本県版未踏的プロジェクトIPPOのファイナリストとして地域資源を利用した課題研究の成果を発表
図書館活動	読書活動の活性化	・図書館利用率	・来館者数前年度10%増	・国語科・学年・担任等と連携したオリエンテーションの実施 ・授業及びHRでの図書館活用の推進 ・デジタルツールでの情報発信と内容の周知 ・職員向け情報提供の強化(授業活用例及び授業関連書籍の紹介等) ・生徒図書委員会による広報誌発行と特設コーナー作り、読書意欲喚起のためのイベント実施、生徒への周知活動 ・生徒図書委員の研修会参加(高校) ・学級文庫の充実(中学)	B	【成果】 ・来館者数が前年度11.1%増で当初の目標を達成 ・オリエンテーションをはじめ授業での利用増加 ・(中学)生徒企画のイベントに伴う利用率の向上 【課題】 ・広報活動による取組の周知徹底 ・図書館が身近な存在ではない生徒への働きかけや仕組みづくり

SSH	第Ⅲ期SSH研究開発の構想の具現化と中間評価に向けた事業の可視化	文部科学省SSH中間評価関連資料の作成及びヒアリングを通じた成果と課題の検証・評価	①研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析 ②教育内容、指導体制 ③外部連携・国際性・部活動等の取組 ④成果の普及 上記4項目について申請内容に基づいた検証	・文部科学省SSH中間評価「自己評価票」の様式及び中間評価の観点に即したSSH研究開発の成果と課題の整理 ・定量データや定性データを整理し、運営指導委員会と高校教育課等との連携 ・本校の成果と課題を整理し、中間評価における指摘事項を踏まえた今後の研究開発の方向性の検討	A	【成果】 ・自己評価票の作成を通して、運営指導委員会、校内会議等の機会での取組の整理とその可視化 【課題】 ・研究開発計画段階で、取組とその評価を計画する必要性
		第Ⅲ期採択時の文部科学省からの指摘事項に対する対応	・「多くの取組を計画し、どの計画も興味深い、一方で計画中的なものが多い」の指摘に対する現在の進捗状況と今後の研究開発の体制の検討	・研究開発の進捗状況として留意が必要である探究活動の総括的評価(ロジックアセスメント等)及びウェルビーイングシートの開発に関するロードマップ作成と組織体制の構築	B	【成果】 ・中間評価に向けた研究開発の振り返りを通して、今後取り組むべき事項の抽出 【課題】 ・事業の評価、教育の評価、生徒の評価の3点を整理した評価計画の必要性

4 学校関係者評価

○地域・行政・小中学校との連携に関する効果的な取組と学校運営協議会委員による提言

・地元の中学生が熊本市内の高校に数多く流出している。その対策として、宇土市・宇城市・熊本市南区及び西区の小中学校を年に2～3回、こまめに訪問している。中学入試も含めて、本校の特長を地道かつ丁寧に説明している。配付するパンフレットやチラシ、ポスター等についても工夫を凝らして作成している。

・PTAとしては高校無償化の施策が非常に気になっている。生徒が熊本市内の私立学校に流れてしまって、地域の高校がどれだけ残るのか大変心配である。行政を巻き込んだ取組が急務であり、宇土市に留まらず宇城市にも手を広げるべきである。

・教員業務支援員と協力しながら学校HPや学校要覧を刷新した。また、宇土市と連携して広報誌やまちづくりに関するリーフレットに、本校から提供したSSH事業や学校行事に関する記事を掲載していただいた。更に、地元企業の協力を得て宇土市内中心部に設置されているオーロラビジョンにおいて、本校の紹介ビデオを無料で放映していただいた。今後もこのような広報活動を継続し、地域へのタイムリーな話題や情報の提供に努めたい。

・教員業務支援員として、どうすれば宇土中高の情報を受信してもらえるのかを考えながら、先ず学校HPの刷新という一番目立つところから取り組んだ。ターゲットである若者にとっては、SNSが最も機動力がある。若者が欲しがるワクワクドキドキするような情報を、タイムリーに本校公式のインスタグラムに掲載したため、予想をはるかに超える反響があった。

・中学生の進学先が多様化している。地元の県立高校は、従来のやり方だけでは生き残ることができないのではないか。通信制課程の新設等も含めて考えるべきではなからうか。

・人間関係に悩み通信制高校に進学する生徒やスポーツ特待で私学を選択する者もいる。通っている学習塾や熊本市内へのアクセスの良さが大きく影響し、学力のある生徒はどうしてもいわゆる熊本市内の四校を受検する傾向が強い。学習塾とも連携しながら、6年間を見通した本校教育の利点を訴えるしかない。

・小学校での高校説明会は大変有意義であった。テレビで放映された探究AwardのCMはかなり効果があった。費用は同窓生からの寄付だと聞いている。今後も宇土中高を知る機会を是非増やして欲しい。小学校の校長という立場として、単に宇土高校への志願者を増やすという視点だけではなく、将来地域で活躍する人材を育成するという考え方を重視している。それが地域の高校が生き残るために大切なことであり、そういう人材には小学生も憧れを持つはずである。

・先日、宇土市で古稀の祝いを開催した。参加者の中に一旦は県外に出たものの、退職後に地元に戻ってきた同級生の姿があった。若者は一度は故郷を離れるかもしれないが、彼らにいずれは宇土に帰りたいと思われるような安心安全なまちづくりを進めるべきである。そのためにも、行政のみならず宇土高校の同窓会にも協力をお願いしたい。

5 総合評価

○**安心安全な学習環境づくり**:各学期にいじめ防止対策委員会やいじめ防止対策協議会(職員研修)を実施し、全職員での情報共有ができており、外部専門家からの助言を生徒指導に活かすことができた。人権メッセージや標語等のコンテストへの積極的な応募をととして、自他を尊重する態度を育成できた。

○**スーパーサイエンスハイスクールの取組推進**:文部科学省SSH中間評価「自己評価表」の作成をととして、運営指導委員会や研究推進委員会等においてこれまでの取組に関する整理とその可視化ができた。

○**グローバル研修の充実**:グローバル講演会(2回)、オンライン英会話(中1～高2全生徒6回)、グローバル・スタディーズ・プログラム(中3全生徒3日間)、外部講師による英検対策講座、台湾大学訪問、英国研修等、講座や研修の機会が拡充できた。

○**自治力向上**:体育祭、文化祭、クラスマッチ等の学校行事を生徒主体で企画・運営することができており、生徒会を中心とした自治力が向上した。各種委員会活動も充実してきている。

○**学習力向上**:単元テストの実施、観点別評価による成績算出、授業と評価の一体化、スタディサプリ等学習ツールを活用した個別最適な学び、ラーニングルームの活用等をととして、学習力の向上に繋げることができた。

○**探究力向上**:地域社会と連携して課題研究等を行い、学会・研究大会・コンテスト等で発表することで、探究力の向上に繋げることができた。

○**生徒一人一人の多様な進路実現**:観点別評価でCの生徒への事後指導、教育データを一元管理した進路の手引き、キャリアパスポートを運用した振り返り、特別講座の実施、進路検討会の研修化等をととして、生徒の多様な進路希望に対応することができた。

6 次年度への課題・改善方策

○課題

・高校の定員割れが続いているという現状。
・基礎学力の定着と教科横断的なものの見方・考え方ができる資質や能力の育成。中学・高校ともに2時間以上の自学ができている生徒は50%程度。
・SSH事業の評価、教育の評価、生徒の評価という3点の評価項目を整理した評価計画が不十分。

○改善方策

・学校HP、Instagram、ビデオ放映、CM、学校要覧、広報誌、学校説明会、小中学校訪問、同窓会等とおした広報活動の更なる充実。
・生徒が2時間以上の自学をするしかけの構築。自己調整学習ができない生徒への教員側の支援方法の検討と改善。
・探究活動の総括的評価(ロジックアセスメント等)及びWell-Beingシートの開発に関するロードマップ作成と組織体制の構築。

